

子ども・子育て支援対策調査特別委員会 報告資料

令和8年4月20日

報告事項件名	頁
1 「未来へつなぐ あだちプロジェクト（足立区子ども・若者計画）」の 策定について・・・	2
2 若者の居場所に関する主な意見と今後の方向性について・・・・・・・・	3

(政策経営部)

子ども・子育て支援対策調査特別委員会報告資料

令和8年4月20日

<p>件名</p>	<p>「未来へつなぐ あだちプロジェクト（足立区子ども・若者計画）」の策定について</p>
<p>所管部課名</p>	<p>あだち未来創造室 子どもの貧困対策・若年者支援課</p>
<p>内容</p>	<p>未来へつなぐ あだちプロジェクト（足立区子ども・若者計画）を令和8年3月に策定したので報告する。 詳細は別添「足立区子ども・若者計画」を参照。</p> <p>1 施行日等 施行日：令和8年4月1日 計画期間：令和8年度から令和12年度（5年間） ※ 「足立区子ども・若者計画」（決定版）をSide Booksに掲載 ※ 区ホームページでも公開</p> <p>2 基本理念</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>すべての子ども・若者のウェルビーイングを ともに考え、ともに進む、アダチ。 ～生まれ育った環境に左右されない未来に向かって～</p> </div> <p>3 今後の方針 (1) 計画の推進 子ども・若者計画に基づき、全庁で施策・事業を推進していく。 【参考】 令和8年度に開始・拡充する主な子ども・若者施策・事業 ア きかせて！みんなのこえ（子ども版区民の声） イ 高校生世代の居場所拡充 ウ 地域学習センターの空き室の利用拡大 エ 日本語学習ルームの増設 オ 知的固定学級・言語障がい学級の新設 カ 大学生等の修学・就職支援の対象者拡充</p> <p>(2) 子ども・若者への周知 当事者である子ども・若者に計画策定と事業展開の方向性を伝える「子ども・若者版」を作成する。その中で、「きかせて！みんなのこえ」等の意見を言えるしくみを周知しながら、当事者としての参画機会をつくっていく。</p> <p>(3) 計画の進捗確認及び評価 重点プロジェクト、事務事業評価及び「足立区子どもの貧困対策本部（本部長：区長）」等により、各施策・事業の進捗確認を行っていく。また、学識経験者及び区民による評価の仕組みを整備する。</p>

子ども・子育て支援対策調査特別委員会報告資料

令和8年4月20日

件名	若者の居場所に関する主な意見と今後の方向性について																																			
所管部課名	あだち未来創造室 子どもの貧困対策・若年者支援課																																			
内容	<p>アダチ若者会議を通じて、若者の居場所に関する意見を聴くとともに、視察等を踏まえて今後の方向性を整理したため、以下のとおり報告する。</p> <p>1 令和7年度「アダチ若者会議～みんなの居場所編～」実施結果</p> <p>(1) 実施概要【実施報告は別添参照】</p> <p>ア 対象者 中学生～大学生</p> <p>イ 実施回数 計5回</p> <p>ウ 主な聴き取り内容</p> <p>(ア) みんながほしいと思う居場所はどんなところなのか？</p> <p>(イ) 区有施設のフリースペース、学習スペースをどのようにすれば利用したくなるか？</p> <table border="1" data-bbox="485 954 1401 1346"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催日</th> <th>対象</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10/8</td> <td>足立新田高等学校の生徒※1</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10/19</td> <td>足立区在住・在学・ゆかりのある中学生・高校生世代※2</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10/23</td> <td>居場所を兼ねた学習支援事業に携わる大学生スタッフ</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>11/20</td> <td>蒲原中学校の生徒</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>12/12</td> <td>加賀中学校の生徒</td> <td>13名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 新田地域学習センターの見学も実施 ※2 庁舎アトリウムのフリースペースおよび中央本町地域学習センターの見学も実施</p> <p>(2) 主な意見</p> <p>ア 全体としては、<u>居場所を利用したい</u>という意見が多かった</p> <p>イ 一方で以下のような課題が意見から見えてきた</p> <table border="1" data-bbox="485 1639 1422 1984"> <thead> <tr> <th></th> <th>若者からの意見</th> <th>見えてきた課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>フリースペースや学習スペースがあることをそもそも知らない</td> <td>情報を若者へ届ける工夫が必要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>誰のため、何のための場所なのかがわからないと利用しづらい</td> <td rowspan="2">利用目的・ターゲットの明確化が必要</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>何もしなくてもいいが、何かしたい時にできる環境が重要</td> </tr> </tbody> </table>		開催日	対象	参加者数	1	10/8	足立新田高等学校の生徒※1	7名	2	10/19	足立区在住・在学・ゆかりのある中学生・高校生世代※2	4名	3	10/23	居場所を兼ねた学習支援事業に携わる大学生スタッフ	6名	4	11/20	蒲原中学校の生徒	9名	5	12/12	加賀中学校の生徒	13名		若者からの意見	見えてきた課題	1	フリースペースや学習スペースがあることをそもそも知らない	情報を若者へ届ける工夫が必要	2	誰のため、何のための場所なのかがわからないと利用しづらい	利用目的・ターゲットの明確化が必要	3	何もしなくてもいいが、何かしたい時にできる環境が重要
	開催日	対象	参加者数																																	
1	10/8	足立新田高等学校の生徒※1	7名																																	
2	10/19	足立区在住・在学・ゆかりのある中学生・高校生世代※2	4名																																	
3	10/23	居場所を兼ねた学習支援事業に携わる大学生スタッフ	6名																																	
4	11/20	蒲原中学校の生徒	9名																																	
5	12/12	加賀中学校の生徒	13名																																	
	若者からの意見	見えてきた課題																																		
1	フリースペースや学習スペースがあることをそもそも知らない	情報を若者へ届ける工夫が必要																																		
2	誰のため、何のための場所なのかがわからないと利用しづらい	利用目的・ターゲットの明確化が必要																																		
3	何もしなくてもいいが、何かしたい時にできる環境が重要																																			

4	Wi-Fi、ゲーム、食べ物の自動販売機などがある居心地の良い場を求めている	ソフト面・ハード面の環境整備が必要
5	安心感があり、大学生スタッフによる学習・相談サポートがほしい	
6	他自治体のような中高生向けのユースセンターがほしい	

2 若者の居場所の視察結果

(1) ジャンプ東池袋

ア 視察日 令和7年12月10日（水）

イ 視察した内容・印象

(ア) ワンフロア（2階）の空間に、音楽スタジオやキッチン、ビリヤード、テレビゲーム、ボードゲームなどが混在

(イ) 友だちと一緒に自由に過ごせるスペースと、一人で自習や好きなことに取り組めるスペースの双方が整備されている施設

(ウ) 1階には児童館があり、小学生から高校生世代まで幅広い年代が1つの建物を居場所として利用している

ウ 運営上の課題等（施設管理者の説明から一部引用）

(ア) 屋上のバスケットコートは、開設当初、音の苦情があった

(イ) 使用面積がそれほど広くないため、人数が10名程度になると狭小感がある

(2) 認定NPO法人3keys運営 ユースセンター3（新宿区内）

ア 視察日 令和8年3月11日（水）

イ 視察した内容・印象

(ア) 非交流型（一人でくつろぐ、交流を前提としない）、非プログラム（特別なイベント等を行わない）がコンセプト

(イ) 他利用者との関わりを気にせずに利用できる空間づくりと、キッチンや洗濯機、シャワー室を完備するなど、自宅の代わりとなるような施設（宿泊のないシェルターのイメージ）

ウ 運営上の課題等（施設管理者の説明から一部引用）

(ア) スタッフ人件費（常時数名必要）、施設賃貸料などの費用負担が大きい（一団体の自主事業としては継続が難しい）

(イ) 利用者の多くは新宿区外から来ている（通学の途中での利用等）が多く、単独区での予算化の理解が得にくい

3 今後の方向性について

(1) 若者の居場所に対するニーズは多種多様であり、オールインワン（多目的）は利用されない可能性がある。

(2) 各施設の利用目的を一定程度明確にして、居場所をつくっていく必要がある。

以上から、①情報発信の強化、②拠点・機能面の拡充、③新たな制度設計の検討の3本柱で進めていく。

該当する居場所	内容
<p>地域学習センター (現行の「フリースペース利用」および4月開始の空き室通年利用)</p>	<p>【令和8年度】 情報発信の強化・機能等の整理 (仮称)居場所活用促進PT(※)を作り、若者独自の視点や発想で、情報発信、利用促進を図っていく。あわせて、利用者のニーズを把握しながら、設備や機能に関する改善策および予算措置を検討していく。 ※ 子どもの貧困対策・若年者支援課、生涯学習支援課、地域学習センターや施設近隣の高校生等をメンバーとして想定</p> <p>【令和9年度以降】 機能面の拡充 利用状況や費用対効果を見極めながら、改善策を区内全域に広げていく。</p>
<p>高校生世代の居場所型学習支援事業の拠点</p>	<p>【令和8年度】 情報発信の強化 新規開設の谷在家校の利用者を増やしていく(2~3年程度で定員上限20名の利用を目指す)。</p> <p>【令和9年度以降】 拠点の拡充 利用状況を見ながら、他のエリア(竹の塚エリア等)への拠点拡充を検討していく。</p>
<p>区有施設、地域(企業・NPO団体・地域団体)が行っている居場所の新設</p>	<p>【令和8年度】 事例把握・情報発信方法の検討 (1) 他自治体の事例などを、引き続き情報収集していく。 (2) 区内での居場所の取り組み状況を把握し整理していく(区としてまとめて公表することについても検討)。</p> <p>【令和9年度以降】 新たな制度設計 (1) 民間活動を区内に点在させるため、居場所支援(新設)に向けた後方支援(補助金)について検討していく。 (2) 他自治体の事例を引き続き研究しつつ、区施設としての新設の可能性を検討していく。</p>